



ミニ集会で地元の皆様と意見交換

小林鷹之 からの手紙



2021年 vol.51 [討議資料]

自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・習志野市・八千代市)

kobayashi-takayuki.jp
 twitter.com/kobahawk
 www.facebook.com/hawk.kobayashi

地元の皆様から様々なお声を頂いております。依然、新型コロナウイルスによる不安が社会を覆っています。2度目の緊急事態宣言も発令した中、逼迫する医療提供体制の下支えと77千の確保を急ぐと共に、雇用維持を含む産業支援の強化に向けて尽力します。

昨夏以来、党の感染症対策会議の事務局長として、「感染症法」や「特措法」に関する具体的な改正案をまとめ、政府に対して早期改正を働きかけてきました。そのうちの一部については通常国会で審議する運びとなりました。引き続き、迅速に徹底してまいります。

今後とも、皆様から頂いた声を踏まえ丁寧に活動してまいります。川村 鷹之

ミニ集会

地域のお仲間や
ご友人と一緒に
**小林鷹之と
語り合いませんか**

ミニ集会の開催をお願いしています。
5人以上であればどこへでもまいります。

WEB ミニ集会も受け付けております。
E-mail をお持ちの方であればご参加できます。
ご希望の方は、下記の地元事務所までご連絡下さい。

地元事務所 〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南1-3-3 山萬八千代ビル1階
 TEL 047-409-5842 FAX 047-409-5843
国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室
 TEL 03-3508-7617 FAX 03-3508-3997



スマート IC について国土交通省に



千葉県 県土整備部長に新川サイクリングロードを視察して頂きました



茂呂剛県議と「道の駅やちよ」の機能強化について国土交通省と打合せ

地元のインフラ整備

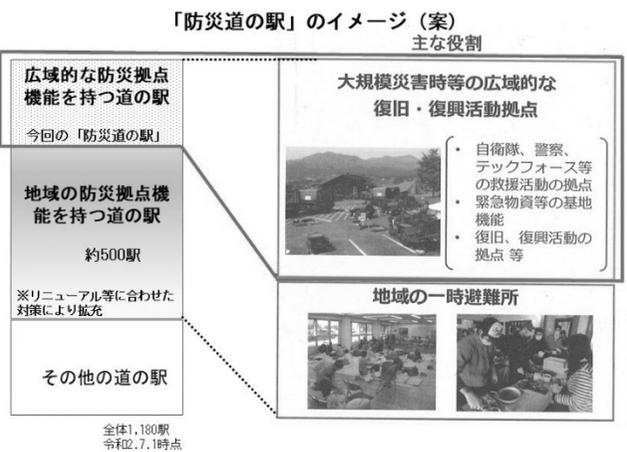
一時期、「コンクリートから人へ」というキャッチフレーズが流行りました。しかし、私たちの暮らしを守り、そして豊かにしていくためには、コンクリートも人も大切です。

特に、道路、橋、あるいは下水道などのハードインフラは、国民生活に直結するものですが、高度成長期から50〜60年が経過する中で、耐用年数を超えるものが年々増えてきており、適切なメンテナンスが必要です。

また、千葉県の都市部、とりわけ私の選挙区などは道路事情が決して良いとは言えません。暮らしの利便性や物流等の経済効率性の向上、災害時の命の道の確保のためには、やるべきことが山積しています。

【道の駅「やちよ」の 広域防災拠点化】

現在、国土交通省にて全国の「道の駅」を活用し、大規模災害などが生じた際の広域防災の拠点化を進めています。緊急時には、自衛隊・警察などの救援活動や緊急物資の基地などの拠点と



して機能することになります。

原則は各県に一カ所で、現時点では房総の君津付近が想定されています。しかし、首都直下地震の可能性、千葉市以西に人口が集中していることに鑑みれば、地盤が安定し、交通の便も良い、道の駅「やちよ」を活用すべきと考えています。



千葉県北部の「道の駅」(千葉県全体 29カ所)

駐車場の拡張や老朽化した建物の改築などが必要になってきますが、拠点として指定されれば、国の直轄事業として実施される部分は地元負担ゼロ(その他の部分については国の交付金等の活用で地元負担を最小化)。その場合は、サイクリングなどの観光や農業振興など新川を活用した事業を想定した形で道の駅をバージョンアップすることができると、県や八千代市にも協力を働き掛けつつ、実現に向けて更に動いてまいります。

【東関東自動車道 検見川・真砂スマートIC(仮称)の整備】

物流施設などが集積する千葉港を含めた県都・千葉市と都心とのアクセス改善や、千葉西警察付近の慢性的な渋滞解消を図るため、

「検見川・真砂スマートインターチェンジ」を整備すべく動いてい

ます。国土交通省の道路局長などと話し合いを進め、昨年十月に、準備段階調査箇所正式に採択されました!

今後、予備設計、環境影響調査、用地測量などが進んでいく予定です。



【第二湾岸道路の整備】

県民の暮らしの質の向上、物流を含めた産業振興の観点から、以前から構想のあった第二湾岸道路の計画が動き出しました。習志野市や千葉市の一部を通ることになります。流れが分散される効果も期待され、国道357号や京葉道路の渋滞解消にもつながります。大がかりな事業ですが、早期完成に向けて力を尽くしてまいります。



地元の都市計画道路を含め、他の県道・市道の課題についても引き続き取り組んでまいります。

令和三年一月吉日

林 鷹之